

平成 27 年度 茨城町立長岡第二小学校 自己評価書

自己評価により明らかになりました、本校の取組状況、成果と課題、改善方策等について下記により御報告します。

1 本校の教育目標

「未来に向かって、自ら考え、こころ豊かに、たくましく生きる児童の育成」

2 重点目標

長岡第二小学校の最終年度に当たり、集団的な学習・教育活動によって帰属意識、愛校心、協働性を高めるとともに、保護者・地域の協力のもとに協同する学校づくりを推進し、葵小学校における教育活動の基盤をつくる。

「**あ**りがとう・**お**もいで・**い**っぱい」から「**あ**いさつ・**お**もいやり・**い**っしょうけんめい」に

3 具体的施策

(1) 「さとく」 学ぶ喜びと感動のある学びの展開

- ① 特別支援学校と連携した校内研修推進による個別指導の充実
- ② TT授業や理科教科担任制の充実による分かる授業の確立と基礎基本の定着
- ③ ブライトリーダーや保護者ボランティアの活用による教育効果の向上

(2) 「けだかく」 学び合いによる心の通じ合える関係づくり

- ① 「長二小のよい子」による生活指導の徹底
- ② 主体的な児童会活動の推進による児童の自己有用感の高揚
- ③ 道徳の時間、論語指導、道徳講演会、人権教室等の教育活動の充実と道徳的実践力の育成
- ④ 日常的な教育相談の充実と積極的な生徒指導の推進

(3) 「たくましく」 目標に向けて努力することを通じての体力の向上

- ① 体育授業改善研修の充実や学習カードを利用した業間運動、外遊びの奨励による体力の向上
- ② 安全教育や避難訓練の積み重ねによる危険予測・回避能力の育成
- ③ 保護者・地域とのネットワークを生かした登下校時の安全確保
- ④ 児童がより高い目標に挑戦しようとする教育活動の創意工夫

(4) 保護者・地域・幼保小中との連携

- ① 児童のよりよい成長を図る幼保小中間の授業参観、情報交換等の実施
- ② 授業参観、学級懇談会、学校公開等を通じた学校理解の促進
- ③ 教育活動状況や担任・学校の思いや願いを保護者・地域に伝え、理解と協力を得る積極的な情報発信

(5) その他

- ① ミドルリーダーの育成
 - 校務分掌における中堅教員の役割と責任を明確にし、学校運営への参画意識と実践力を高める。
 - 中堅教員が若手教員のOJT研修に積極的に関わることにより、自らの指導力の改善・向上を図る。
- ② 安全・安心な学校づくり
 - 児童の事故防止に努め、体験を通して児童の危険回避能力を高める。
 - いじめや体罰、不登校に対する危機意識をもち、未然防止に努める教師集団の育成を図る。

4 自己評価

	自己評価のまとめ（取組状況・成果と課題）	次年度に向けた改善方策
学力の向上	○幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた指導に関する専門家派遣事業（発達障害等に関する専門家派遣）を活用し、内原特別支援学校と連携した校内研修により、児童理解を深め、個別指導の充実を図ることができた ○TTによる少人数指導や理科教科担任制授業の充実により、分かる授業による基礎基本の定着に努めた。 ○朝のドリル学習やこじかタイム（ステップアップ問題の反復練習）の個別指導に力を入れ、学習内容の定着に努めた。学力診断テストの結果分析に基づき、補充学習の徹底に努めたい。	○各学級に発達障害等があると思われ教育的支援を必要とする児童が在籍し、担任が指導に苦慮している現状において、専門家派遣事業を活用した校内研修は非常に有意義であった。内原特別支援学校職員による定期的な授業参観と担任への助言指導は、次年度も何らかの形で継続実施していきたい。 ○アクティブ・ラーニングの実践に努めてきたがまだまだ従来の授業形態から抜け出せないのが実情である。課題提示や発問・指示の仕方、学習形態と作業内容の工夫、教材・ワークシート等の準備など、児童の主体性や協働性を引き出すために教師のすべきこと一つ一つを洗い出し根本からの授業改善に取り組みたい。
豊かな心の育成	○児童の一日の活動とそれに対する教師の指導内容や生活・学習の約束を見直し、学級経営力の強化と生活指導の徹底とを図った。 ○高学年児童を主体とした児童活動が展開され、縦割班活動や委員会活動を充実させることができた。 ○昨年度から始めた全校朝会時の「論語の唱和」を継続して行い、道徳教育の推進に努めた。 ○校舎改修工事により学校花壇が縮小されたため、全校児童による栽培活動を十分に行うことができなかった。	○担任には、所属児童の自己存在感や自己有用感を高めるとともに、学級に目標をもたせ、質の高い集団を育成する学級経営力が求められる。意図的・計画的な学級活動の在り方について研修を推進したい。 ○統合の児童数増加に伴い児童会活動や縦割り班活動の抜本的な見直しを行う。 ○統合後のそれぞれの「地域」を大切にする学習活動や地域活動に配慮しなければならない。生活科や総合的な学習の時間、社会科における地域学習だけでなく、地域を活動場所とする特別活動や環境学習を検討し、指導計画にしっかりと位置付けていきたい。
健康と体力の向上	○薬物乱用防止教室や救急医療普及講座、親子性教育講演会等、専門家による指導の充実を図った。 ○学習カードを使った縄跳びや持久走の業間練習を積極的に行うことができた。 ○冬季のうがい・手洗いの指導徹底に努めたので、インフルエンザによる学級閉鎖がなかった。	○専門家を講師とした各種講習会は、継続して実施する必要があるので、次年度も意図的・計画的に実施していく。 ○学区の拡大に伴う安全管理体制・防犯体制の見直しを行う。 ・通学路の把握と巡視計画 ・新たな安全マップづくり ・こどもの安全を守る110番の家
保護者地域との連携	○学校ホームページに学校の教育方針や教育活動の実際を載せ、情報の発信・共有に努めた。 ○児童だけでなく保護者との教育相談を積極的に行い、問題行動に対して家庭との連携による対応に努めた。	○統合により、それぞれの地区の地域人材活用が可能になる。活用計画を明確にし、教育効果の向上を図りたい。 ・ブライトリーダー ・安全ボランティア ・保護者の学習支援ボランティア

平成27年度 茨城町立長岡第二小学校 学校関係者評価書

茨城町立長岡第二小学校 学校関係者評価委員会

1 学校関係者評価委員会の総評

(1) 本校の目標と重点的な取組について

「かしこい子育成プロジェクト」, 「こころ豊かな子育成プロジェクト」, 「じょうぶでたくましい子育成プロジェクト」という3つのプロジェクトは, 「知・徳・体」バランスのとれた児童を育成するうえで望ましい。葵小学校になっても継続してほしい。

(2) 成果と課題について

長い時間をかけなければ表れてこない成果もある。効果があると思われる施策には自信をもって取り組み, 継続させてほしい。

(3) 改善・要望点について

特になし。

(4) 本年度の自己評価の方法やアンケートの取り方等, 学校評価そのものに対する要望

アンケート調査を実施すると, 学校と児童・保護者の評価にずれがあることも明確になり, 改善の手立てを講じるうえで参考になるはずである。

(5) その他

校舎規模が変わらないまま各学年2学級になることで, 児童の活動に支障はないのか。

2 分野別評価

学 校 の 取 組 に 関 す る 評 価 と 今 後 の 改 善 点	
学力の向上	○担任が一人で指導するだけでなく, 他の先生が学級に入ったり, 数名を取りだして個別の指導を行っていることに驚いた。複数の目で子供達を見ることは, 学習以外の面でも有効ではないかと思う。 ○教室がきれいに, 明るくなった。子供達が落ち着いた環境の中で集中して学習ができれば, 学力も向上するのではないか。
豊かな心の育成	○児童に論語の本を持たせて全校朝会で唱和するという活動は今後も続けてほしい。 ○去年の11月に行った「さよなら長二の日」はよい集会だった。学習発表ではそれぞれの学年の子供達が生き生きと活動していたし, ゲームのアトラクションでは高学年の子供達が下級生を楽しませようと一生懸命だった。PTAの委員会ごとの模擬店も盛況で, 学校と保護者が一体になっていた。 ○校舎改修工事で思うようにできなかった花壇づくりや学校農園の栽培活動を次年度は盛り上げてほしい。学校農園は移設した場所(体育館東側)で十分なので, そろそろ土づくりをしておこうと思う。
健康と体力の向上	○子供達が外で遊んでいる姿をほとんど見ない。部屋でゲームをしているのだろうが, もっと体を動かす遊びをしてほしい。学校の休み時間に全員で縄跳びやマラソンの練習をするのは大変よい。 ○車との接触事故や自転車運転中の転倒事故があったが, いずれもヘルメットをかぶっていたため大事に至らなかった。必ずかぶらせるよう家庭への指導を徹底してほしい。 ○うがい・手洗いの励行によりインフルエンザによる学級閉鎖がなかったのは素晴らしい。学校からの手紙(保健だより)が何度か出ていたので, 家庭でも気をつけてやらせていた。

保護者地域との連携	○（長岡二小区の教育後援会長新任について） 平成２８年度から会長が変わるが、葵小学校の初年度は、長岡二小区の会長が葵小学校の会長を務めることは伝えてある。各地区正副２名を挙げておいた方が、輪番制で会長を務める際、引き継ぎがしやすいと考えている。 ○初年度のＰＴＡ活動をどのように進めていくか検討していきたい。 ※矢頭東区では、地区委員が教育後援会の賛助会費を集金していたが、石崎小区や広浦小区の保護者も地区委員になる次年度からはどのようにするのか。 ※これまで全保護者がＰＴＡの専門委員だったので問題はなかったが、委員の人数が決められると、（６年間で何回か引き受けなくてはならないとしても）選出に苦勞するのではないか。
------------------	--